

## 基本施策別 これまでの検討経過及び武蔵野市市民活動団体実態調査結果

基本施策	施策	施策の概要	H28～R1年度基本施策の達成状況 市民活動推進委員会評価	策定委員会 意見	武蔵野市市民活動団体実態調査 結果 □数量結果 ■記述抜粋要約
1 市民活動の裾野の拡大	<b>重点施策</b> (1)市民活動のきっかけづくり	ボランティア意識向上に向けた場の提供や、活動のきっかけの場の提供、地域の魅力発信による参加につなげる地域の魅力発信を行います。	【H28】○市が行っているツイッターやフェイスブック等の広報活動において、市民活動がどれだけ紹介されていて、どのくらい市民に届いているか、またその質がどうかということを検証するシステムの構築が必要である。また、市民活動団体の活動に対する広報支援の強化も必要である。 【H29】○イベント等の広報を行う際、チラシにデザイナーを起用することを検討すると良い。市民にも広報（デザイナーや情報発信力のある方）が上手い人がいると思われ、協働してイベント広報に取り組みるといいのではないかと。 【H30】○SNS が普及し、様々な方面からイベントのアプローチが可能になった。SNS から情報を受け取れる人、逆に SNS からの収集を苦手としている人がいることも考慮する必要がある。 ○情報を誰に、どのように伝えたら効果があるかという講座があったらよい。 ○口コミによる効果は大きいと思う。 【R1】○各種の啓発事業や多様な手段による情報発信が行われていると評価できる。今後はSNSの活用や公共施設へのWi-Fi設置等の環境整備を進めていくことが重要である。特にコミセンが情報発信の拠点として機能するとよい。	○新規参加者の不足。原因の一つとして、興味・関心は持っているが仕事があるため日常的に関われない。もう少しパートタイム的な関わりでもよいのではないかと。 ○関心のある大学生にインターンシップとして入ってきてもらえれば。	【3-問10】□団体の活動情報の発信は「団体のホームページ」が47.7%で最も高く、次いで「団体のチラシや広報誌の配付」が46.8%、「メンバーなどによる口コミ」が42.2%。
	(2)多様な活動につながる情報の提供	市民活動団体の情報を多様な媒体と機会を通じて提供するとともに、地域の社会的な課題に関する情報など、活動のテーマにつながるような情報についても提供していきます。	○情報提供やセミナーを検討すべきである。 【H29】○財政的な支援という点はネックになりがちだが、従来の補助金等ではなく、企業等とのマッチングといった支援もあると思う。 ○武蔵野プレイスでは、各団体へステージごとの自立に向けた支援を行っている。 ○学びの支援だけということが、これまで多かったように思う。そこから活動にいかにつなげるかが重要。その部分のサポートがほしい。 【H30】○補助金等、行政が支援した団体等には、効果を報告する場を設けるとよい。報告書を公開することも検討してほしい。また、成功事例を集めたイベントをやってみるのはどうか。 【R1】○多様な事業が数多く実施されていることは評価できる。ただし、学びの機会の提供や専門的な相談への対応など、行政による対応には限界もあるため、市民活動団体と連携した取組みについても検討が必要である(たとえば、市民活動団体が提供できる学びの場を活用する、特定の分野について詳しい団体が交代で、窓口で相談に応じる等)。「学び合う」場も大事である。団体や活動を俯瞰した情報整理ができるとよい。		【6-問18】□基本施策 1 に係る①市民活動のきっかけづくり②多様な活動につながる情報の提供はいずれも満足度が低く、重要度が高い。  【3-問10】□団体の活動情報の発信について行政関連の媒体では「市の広報紙」が37.6%で多い。SNSはFacebookが22.0%と多い。 【2-問6】■広報の成果がわかりにくい。活動の普及に向けて、セミナーの講師などをやらせてもらいたい。
2 市民活動の促進と自律・自立に向けた支援の充実	(1)情報提供の充実	他団体の活動情報や団体運営に必要な情報、さらには助成金や融資制度など財政支援につながるような情報など、市民活動の多様性とステージにあわせ、自律・自立につながる情報を提供していきます。	【H28】○市民活動団体の活動ステージに合わせ、必要なスキルを向上させるためのピンポイントなニーズに対応できる情報や講習会などの提供が必要である。また、市民活動の広報活動について、マーケティングなどの企業経営の視点を取り入れた情報提供やセミナーを検討すべきである。 【H29】○財政的な支援という点はネックになりがちだが、従来の補助金等ではなく、企業等とのマッチングといった支援もあると思う。 ○武蔵野プレイスでは、各団体へステージごとの自立に向けた支援を行っている。 ○学びの支援だけということが、これまで多かったように思う。そこから活動にいかにつなげるかが重要。その部分のサポートがほしい。 【H30】○補助金等、行政が支援した団体等には、効果を報告する場を設けるとよい。報告書を公開することも検討してほしい。また、成功事例を集めたイベントをやってみるのはどうか。 【R1】○多様な事業が数多く実施されていることは評価できる。ただし、学びの機会の提供や専門的な相談への対応など、行政による対応には限界もあるため、市民活動団体と連携した取組みについても検討が必要である(たとえば、市民活動団体が提供できる学びの場を活用する、特定の分野について詳しい団体が交代で、窓口で相談に応じる等)。「学び合う」場も大事である。団体や活動を俯瞰した情報整理ができるとよい。		
	(2)相談体制の充実	市民活動団体の団体運営や事業内容等に関する相談に対応する体制の充実を図ります。			【4-問13⑥】■行政手続きを一つの窓口で受け付けてほしい。 ■行政担当者が変動する際の引継ぎ強化。
	(3)財政的な支援	補助金制度の見直しを行うとともに、資金調達のための情報提供の充実を図ります。		○できるときに不定期で活動したい人たちとつながり、プロジェクト方式で活動を企画している。活動資金はほとんどなく、会費も取っていないため助成金・補助金、クラウドファンディングで運営資金を作っている。 ○活動の部分と収入を得るための事業の2つで取り組んできた。 ○寄附は願いの仕方が難しいが、コロナで厳しい旨伝えたとごころご支援いただいた。	【2-問3, 7】□年間の事業費を除いた支出で、全体に占める割合が最も大きかったものは【コロナ前】で「事務費等の活動経費（通信費、印刷費）」が45.9%で最も高く、次いで「スタッフの人件費」が27.5%、「その他」が14.7%。【コロナ以降】においても大きな変化は認められない。 【4-問13⑥、6-問17】■ボランティアに頼りすぎではないか。活動継続にあたっては無償ではなく適切な予算を割くべき。 ■技術を持った者への評価をしてほしい。
	<b>重点施策</b> (4)市民活動に関する学びの機会の提供	講座等の開催により、市民活動の多様性とステージにあわせ、必要な意欲・能力の向上の場を提供します。あわせて、地域課題を体系的に学ぶ場の構築を進めます。			【2-問6】■デザイン・IT等のスキル強化のためプロボノ申請や講座、派遣、マッチングなど支援して欲しい。
	(5)交流の促進	武蔵野プレイスを活用する等により、市民活動団体の交流機会の場の提供や、異なるセクターとの連携を推進します。		○アンケート結果を活用することで、新たに活動してみたいという人たちの相談窓口にも使えるのでは。	【4-問13⑩】□今後、市内市民活動団体との協働・連携を深めたいかは「現時点では考えていない」が41.3%で最も高く、次いで「考えている」が28.4%、「今後考えてみたい」が22.9%。 【6-問17】■成功事例の紹介や各団体（教育機関も含む）との情報交換、課題共有、交流の機会を提供してほしい。
<b>重点施策</b> (6)コーディネート機能の強化	複雑化・多様化する課題やニーズに対応すべく、地域としてコーディネートしていく体制作りを進めます。				
3 市民活動の場の利用促進	(1)武蔵野プレイスの有効活用	テーマやニーズごとに市民活動団体同士をマッチングできるコーディネート機能の強化や相談体制の確立、市民活動に関する情報の発信や講座の開催など、武蔵野プレイスを活用した様々な支援を実施します。	【H28】武蔵野プレイスの個人利用者をどのように市民活動につなげていくかが今後の課題である。また、武蔵野プレイスの市民活動支援機能を強化することにより、市民活動団体の有効利用を促進し、市民活動の活性化を図る。公共施設と合わせて、民間の利用可能な施設の情報提供が必要である。また活動内容によって、利用が難しい施設もあることから、活動の内容に応じた施設の情報提供が必要である。 【H29】○武蔵野プレイスの登録団体数は安定して推移している。 ○これまで、生涯学習という観点で、講演等を行ってきた。著名人であれば多くの方に参加いただけるが、そのあとの活動につながりにくかった。講義の後にマッチングを行う形に変更するなど工夫をしている。 ○創業支援施設などの情報を一括して提供してもらえると使いやすい。 【H30】○地域には多くの高齢者が住んでいるが、まだコミセンに来ていない人もいる。地域のたまり場となるようにしていきたい。 ○成蹊大学にはたまり場（ボランティアセンター等）があり、そこにコーディネーターがいる。 ○居心地の良さがあってほしいと思う。ちょっとした食事や音楽を提供するなど。 【R1】○活動場所は屋内施設に限らず公園などの屋外スペースも考えられ、その利用方法・手続について、より分かりやすく情報提供を行ってほしい。手続の簡素化も必要である。	○3階市民活動エリアに活気やワクワク感がなく事務的。コーディネートを担う職員の人物紹介を行ってほしい。 ○吉祥寺図書館等、東部にある施設に市民活動支援の機能を持たせてほしい。東部にサテライトオフィス等を設置し、プレイスに誘導するような動きが必要。 ○文化事業団と生涯学習振興事業団の統合により、違うフィールドも増えるのではないかと。 武蔵野プレイスをオンライン環境が徹底的に整備された拠点にしてほしい。人々が一箇所に集まる形の活動だけではなく、そこから発信することにより、いろいろなつながりが生まれる。	【5-問14】□プレイスで使用したことがある項目は「ワークラウンジの利用」が33.9%で最も高く、次いで「プリント工房」が26.6%、「チラシ・ポスターなど広報物の設置」が25.7%。無回答は61.5%。 【5-問14】□ワークラウンジ、プリント工房は満足度、重要度いずれも高い。一方、情報ステーションへの投稿や市民活動フロアだより・団体イベント情報への投稿は、重要度0.7～0.8に対し、満足度が0.3前後と低い。 【5-問15, 6-問17】■遠い、利用したことがない。武蔵野の市民より他地域の人々に利用されているのでは。
	(2)多様な活動の場の情報提供	コミュニティセンターをはじめとした様々な公共施設や公共施設以外の利用可能な施設等についても、幅広く情報を提供します。			【1-問4】□【コロナ前】団体の活動場所や施設は、「各地域のコミュニティセンター」が50.5%で最も高く、次いで「その他」が33.0%、「武蔵野プレイス」が31.2%。その他では個人宅、レンタルスペース、飲食店、福祉施設などが上げられた。 【2-問6, 6-問17】■活動場所の拡大、確保が課題。

基本施策別 これまでの検討経過及び武蔵野市市民活動団体実態調査結果

基本施策	施策	施策の概要	H28～R1年度基本施策の達成状況 市民活動推進委員会評価	策定委員会 意見	武蔵野市市民活動団体実態調査 結果 □数量結果 ■記述抜粋要約
4 課題解決のための「連携と協働」の推進	(1)連携と協働に向けたネットワークの構築	協働に関する情報提供を行うとともに、企業・大学との協働に関する相談・情報提供や異なるセクターとの交流の推進を図ります。	【H28】市民活動団体同士のつながりと合わせて、市民活動団体、企業、大学、コミュニティ協議会といった異なるセクターとの更なる連携・協働を推進し、地域の活性化を図っていく必要がある。 施策の目的ごとに市内組織があり、連携が弱い点は、今後の課題である。また、各部署がそれぞれ所管している事業であっても、地域ではいつも同じ市民が活動しているという状況も課題となっている。	○市民協働＝プレイスようになりつつあるが、それで良いのか。多くの主体による協働の仕組みがあると良い。 ○商店街との連携により、活動の幅がかなり広がった。	【4-問13】□他団体との協働・連携状況は「行政」が65.1%で最も高く、次いで「市民社会福祉協議会・ボランティアセンター」が33.0%、「コミュニティ協議会」が32.1%。「協働・連携関係はない」は7.3%。
	(2)協働に向けた体制の整備	「連携・協働」の考えを共有し、職員への協働に対する理解の促進と知識の習得を図るとともに、地域の情報や課題を、市民と行政が相互に学ぶことのできる場の構築を進めます。	【H29】○企業との連携協働は実は少なくはないのではないか。洗い出しが済んでいないと思う。 ○企業市民、企業の市民活動という点は現計画にはない。このあたりをどのように位置づけるかが次期計画で議論できると良い。 ○行政が関わる相談の窓口は全般的に固い印象がある。 【H30】○コミセンが溜まり場になっていたり、武蔵野プレイスで様々な人がいたりすると、そこに関係している人は情報がもらえる。地域の繋がりができていると、ニーズを具体化できるということかもしれない。 【R1】○各種イベントに限らず、政策形成過程における行政・市民の協働も進められている。協働促進のために職員研修や職員・市民がともに学ぶ場の設定が必要である。		【4-問13②③】□武蔵野市との協働・連携により事業を実施したことで、良かった点は「予算の負担軽減につながった」が39.4%で最も高く、次いで「効果的な広報・啓発を行うことができた」が38.0%、「事業目的・目標を共有できた」が31.0%。課題に感じる点は「特になし」が36.6%で最も高く、次いで「手続きや情報共有など、事務的な負担が増えた」が35.2%、「活動に制約ができた」が12.7%。 【4-問13④】□今後、行政（武蔵野市）との協働・連携を深めたいかは「考えている」が51.4%で最も高く、次いで「現時点では考えていない」が22.9%、「今後考えてみたい」が20.2%。 【4-問13⑤】■市内で横断的に連携（縦割り行政の解消）し、各課で情報交換してほしい。
新たな課題	コロナ禍・後への対応 オンラインの活用	【R2年度以降の取組み】 ○市民活動マネジメント講座「Zoom活用講座」 「Zoomのすゝめ」（プレイス） ○ぶらっとプレイス「初めてのZoom体験」「Zoom会議で集まるう」（プレイス） ○Zoomボランティア養成講座（市民社協）	【R2年度委員会における意見】 ○情報格差が広がらないようオンラインサポートの講座などを繰り返し行うことが大事だ。 ○オンラインの利用により、学生・若者が入ってきて活躍できるチャンスが生まれる。 ○SNSやZoomなどの情報ツールは、利点だけでなくリスクもあることを学ぶ必要がある。	○市民活動への支援としてオンライン環境の貸出や場所の無料化、Wi-Fi環境の整備いただきたい。 ○コミュニティセンターのデジタル化が遅れている。早急にWi-Fiを整備したいが、運営者が理解できていないので、学んでい作業も必要になってくる。 ○デジタル弱者をどうするか。ハードを導入するだけでなく安全な使い方を理解している人材を配置する必要がある。	【2-問8】□活動する上での新型コロナウイルスの影響は「イベントや行事が中止になった」が72.5%で最も高く、次いで「活動を休止している」が38.5%、「メンバー同士の話し合いの機会が持てない」が33.9%。 【3-問11】□ICT等の利用状況は「コロナ禍で利用の幅を広げた」が37.6%で最も高く、次いで「利用していない」が33%、「コロナ前から今と同様に利用している」が22.9%。 【3-問12】□ICT等の利活用に対して、感じている課題は「パソコンやスマートフォンを活用できるメンバーが少ない」、「個人情報保護やセキュリティ対策など、ICTを適切に取り扱う知識・能力に不足がある」が37.6%、「その他」が25.7%となっています。その他では高齢の方への対応、メンバー一斉の連絡ができない、ネット環境整備などが上げられた。 【2-問9】■wi-fi等ネット環境を公共施設に整備してほしい。Zoomアカウント等の費用負担。 【2-問6、9、6-問17】■オンライン活用に当たった際の講座などの支援。
	市民活動支援の対象拡大			○団体の形をとらずに市民活動を行うコミュニティが、SNS等の若い人を中心にたくさん生まれている。武蔵野プレイスや市民社協のことをよく知らない。市民活動団体自体が変化していくのでは。市と直接協働できる新たなコミュニティの実態を把握できると良い。 ○法人化していないNPOも、公共性があり地域課題に真剣に取り組んでいる団体には、気持ちを受け止めて支援していただきたい。 ○現行計画には共益性や私益性のある活動も含めてよいのでは、という議論があったが、公益性のある活動への支援が中心になってしまっている。組織化された団体と市の協働という構図になっている。 ○公益、共益、私益の区別は非常に曖昧なので、あまり前面に出さず個人が楽しいと感じることをどう支援するかという視点が大事。 ○個人の市民活動の後押しには、オンラインでの市民活動支援が重要。 ○活動を通じて何の社会課題を解決していくかといった視点も取り入れていただきたい。	【4-問13⑥、6-問17】■フリーの小さな市民活動は黙視されているように感じる。小規模団体への行政の協力が手薄い。 【6-問17】■活動目的がピンポイントのものは比較的助成の対象となっているが、人としての土台、教育のような幅広い分野には助成がない。